

学習指導コース カリキュラムイメージ (案)

1. コースの理念

今日の学校教育をめぐる問題状況（学力格差，学習意欲の低下，理数離れなど）の生起には多くの要因が関与しており，さまざまな側面から諸課題が指摘されている。こうした問題状況に通底する原因のひとつに，授業として行われている教授学習過程がうまく機能していないことをあげることができよう。

児童生徒の学習を有効かつ適切に促進・援助し，これを基盤に学校や実生活におけるさまざまな問題状況や課題の解決に資するためには，授業における学習の内容・方法を教科の論理や視座から理解するにとどまらず，学習の主体である児童生徒の論理や視座からもとらえ，教授学習過程をよりよく機能させていくことのできる力量が教員には求められる。

本コースは，「新しい学び」を支えるこうした観点からの実践的指導力の育成をねらいに，共通5領域の「教育課程の編成・実施に関する領域」と「教科等の実践的な指導方法に関する領域」を専門的に発展させたものである。

2. コースで養成する人材像

授業についての確かな指導理論と優れた実践力・応用力・マネジメント力を備え，学校教育の抱える多様な問題状況や諸課題の解決に向けて積極的に取り組むことのできる教員を養成する。現職院生においては，学校において指導的役割を果たし得る教員，学校現場の中核を担える教員，将来は指導主事となる教員などを養成する。現職院生以外の院生（学部新卒者・社会人経験者など）においては，実践的な指導力・展開力を備え，確かな学校づくりの一員となり得る教員を養成する。

授業実践に即していえば，教科での学びの構造化，到達目標・評価観の明確化，能力の体系性・系統性などの視点から児童生徒の学習の変容を的確に捉え，その変容から教授学習過程の評価・改善をはかることのできる力量の形成をはかる。具体的には次のような活動に取り組みながら，「新しい学び」を創造・支援していくことのできる教員を養成する。困難とされてきた学習目標の実現可能性を高める，新しい学習目標の重要性や実現可能性を明らかにする，認識されていなかった学習者のつまずきの実態を明らかにし改善をはかる，課題の改善をめざした教材・教授法・学習ツールを提案しその有効性を明らかにする，学習者がもつ不適切な学習方略・学習観の変容を促し改善をはかる。

3. 授業担当教員（の専門性等）及び授業形態等の提案

授業担当教員には教職経験の有無にかかわらず、実践的課題解決に資する指導体制を構築するために、院生や学校現場の教員、他の大学教員と連携・協働しながら、教科の論理や視座に加えて、学習者の論理や視座からも授業を考えていくことのできる資質・能力・態度が求められる。教員の専門性を基盤にしながらも、その枠内にとどまらず、実践的課題解決に向けてその専門性を拡充・発展させていくことが望まれる。

授業形態としては、適宜、模擬授業・事例研究・PBL などのアクティブラーニングを取り入れ、院生が実践的に取り組めるようにする。授業実践と学校の実践課題を中核において、現職院生と学部新卒者・社会人経験者がそれぞれの学習指導や学習の履歴を活かして学修を深めていく。実践経験の違いを考慮し、現職院生あるいは学部新卒者・社会人経験者のそれぞれに特化した内容の授業科目を設ける。

なお、科目構成にあたっては、共通領域科目との関連性や一貫性をもたせ、専門的な発展性のあるものとするため、共通領域科目と同時に検討していくことが望まれる。

4. 提示されている授業科目の授業内容

別表「学習指導コース専門科目」及び「学習指導コースの専門科目と領域・事項の関連」に示した。概要は次のとおり。

専門科目

- 1) 「授業実践，教材開発」「授業研究，研究推進」「教師成長」「教育実践改善研究」の分野を設け科目を配当する。
- 2) 学習や学習指導に関する教育学・心理学などの人間諸科学における成果や知見を取り入れる。
- 3) 「教育実践課題解決研究」は、共通科目及び専門科目での学修の成果を統合するとともに3つの実習に連動する。

実習科目

- 1) 連携協力校や現任校において、大学院生，大学教員，学校現場の教員が協働して内容を構築する。各実習は「教育実践課題解決研究」に連動し、共通科目及び専門科目の学修の成果を統合する役割を果たす。
- 2) 「授業実践開発準備実習」では、学校における課題の現状把握，実践課題の明確化，児童生徒や実習校教員とのラポール形成を行う。
- 3) 「授業実践開発実習」では、「授業実践開発準備実習」を踏まえて課題解決のための方法を検討し，実習を通して解決に取り組む。
- 4) 「授業実践改善実習」では、「授業実践開発実習」の成果と課題をもとにしてさらなる解決に取り組む。

■ 学習指導コース専門科目

分野	授業科目名	内容	履修年次	履修対象 (その他：学部新卒者，社会人経験者などの院生)	単位数				
					現職		その他		
					必修	選択必修	必修	選択必修	
授業実践・ 教材開発 分野	学習指導と授業デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校における現代的な教育課題や育てる子ども像に照らした学習指導の内容・方法及び評価に関する理論・方法・技能 ■ 習得した理論や技能等を用いた，効果的な授業デザインとその評価 	1・2	現職 その他		2		2	
	学習環境とICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学習意欲の喚起，学習活動への主体的参加とその組織化 ■ I C Tなどを活用した学習環境の情報化 ■ 学校内外との連携・協力体制の組織化とネットワーク化 	1・2	現職 その他		2		2	
	授業実践研究のための質的・量的データ分析	<ul style="list-style-type: none"> ■ 構成概念に基づく変数設定など，実証的な教育実践研究の考え方 ■ 授業実践の効果を測定・評価するための質的及び量的なデータ分析の手法 ■ 授業実践の効果を測定・評価するための尺度構成法，プロトコルデータ分析法 	1・2	現職 その他		2		2	
	教材開発の理論と方法・技術	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学習活動と教授活動をつなぐ媒体としての教材及び学習内容の開発と構成 ■ 教材開発の方法と技術の習得 ■ 各自の実践課題に即した単元計画・学習指導案の作成 	1・2	現職 その他		2		2	
	授業実践における専門的 技能	<ul style="list-style-type: none"> ■ 初等・中等学校の授業実施に必要な指導技術向上（実地授業の観察・分析・評価，指導案立案，教材作成，学習評価，発問・板書技術等を取り入れた模擬授業型演習） 	1・2	その他				2	
	カリキュラムデザインの 基礎	<ul style="list-style-type: none"> ■ カリキュラムの基礎的知識及び構成・評価技術の習得（学習指導要領と教育課程，初等・中等学校の各教科等の系統・関連，年間指導計画等の検討，試案作成を中心とした演習） 	1・2	その他				2	
授業研究・ 研究推進 分野	授業研究の理論と実践	<ul style="list-style-type: none"> ■ 実践事例をもとにした授業改善の理論理解 ■ 高度な授業実践のための授業設計，展開，分析，評価 ■ 高度な授業実践のための相互的組織，計画づくり ■ 反省的授業実践による実践力の育成 	1・2	現職 その他		2		2	
	学校カリキュラムの デザインと推進体制	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各校の自然的・社会的環境や児童・生徒の実態等に即して作成される学校カリキュラムのデザイン（構想・開発・評価）と運用に関する理論及び方法・技術の習得 ■ 現任校の学校カリキュラムと教育研究推進の組織の現状と課題の分析，検討 	1・2	現職	2				
教師成長 研究分野	教師の専門的 思考と知識 基盤	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教師の認識・思考と意思決定過程の特徴の理論的検討 ■ 授業実践の基盤としての児童生徒の学習過程についての学習理論にもとづく多面的・批判的検討 ■ 教師の認識・思考や成長・発達の過程を踏まえた同僚性の構築 	1・2	現職 その他		2		2	
	メンタリングの 理論と 実践	<ul style="list-style-type: none"> ■ メンタリングの意義と目的 ■ 職場におけるミドル・リーダー，メンターの役割とメンタリング機能 ■ 学校教育現場におけるメンタリングの特色と課題 ■ メンター－メンティの信頼関係の形成，メンタリングの方法・技術，メンタリング・コミュニケーション 	1・2	現職	2				
教育実践 改善研究 分野	教育実践課題 解決研究	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自らの課題意識に基づく教育実践課題についての調査研究 ■ 課題の発見，課題解決に向けての仮説設定，課題解決のための授業モデルの開発 ■ 探究的研究活動としての実践の成果のまとめ，評価と改善策の提言 ■ 教育実践の場に即したアクション・リサーチのための力量形成 	1～2	現職 その他	8		8		
必要修得単位数					12	8	16	4	

